



直接授乳ができない場合、 タイムリーな乳汁来潮や 適切な母乳分泌確立に つながる搾乳支援方法とは

～NICUの母親から、
産後早期に一時的な搾乳支援が
必要な正期産の母親まで～



協賛：

medela 
THE SCIENCE OF CARE™

日時：

2023年7月1日（土）

14：00～15：30

【お申し込み方法】

日本助産師会ホームページの
会員ページより、お申し込みください。

非会員の方も日本助産師会会員ページのログイン
画面の下にある、「非会員の方はこちら」から、
非会員用ログインID登録を行うことで、
非会員マイページへとログインが可能となり、
マイページ内での申し込み・受講が可能となります。

【受講料】1,000円



<会員専用>マイページログイン
公益社団法人日本助産師会
<https://mypage.midwife.or.jp/>

会員ページへ簡単アクセス

ウェビナー研修 ～流れ及び内容について～

最新のエビデンスとして、日本では初上陸のウェビナー研修をメデラ株式会社による日本語翻訳にて開催する企画です。下記2部構成を通して、搾乳支援を考えます。

第1部 Paula Meier 博士 (RN Ph.D) によるウェビナー動画の配信 (60分、日本語翻訳)

ラッシュ大学医療センター (RUMC) 新生児集中治療室 (NICU) 小児看護学教授 / NICUラクテーションサービスセンター長 (アメリカ合衆国シカゴ)

ウェビナー 動画の内容

1. 自母乳の重要性について
◇新生児の健康増や転機改善の観点からドナーミルク、人工乳と自母乳の違いを考えて関連の臨床根拠を紹介
2. 自母乳を早期から得るためにベストプラクティスの提言
◇タイムリーな乳汁来潮乳や適切な母乳分泌確立の定義について解説
◇それらの達成につながるベストプラクティスを示し、その際、指標として使える下記事項を解説:
> POC検査を用いて簡単に測れるバイオマーカー (母乳中のナトリウム、ラクトース、クエン酸、総蛋白質およびナトリウム:カリウム比などの検査)
> 適切な母乳分泌確立を示す母乳量の基準
> 母体の炎症に基づく病的状態
3. 産後早期の支援で使われる搾乳方法の有効性と効率を比較
◇病院グレード電動搾乳器、手搾乳、ハンズオンポンピングなど

第2部 質疑応答 (15分) 解説: メデラ株式会社 佐竹マータ

講師 プロフィール



Paula Meier 博士 (RN Ph.D)

(ラッシュ大学医療センター (RUMC) 新生児集中治療室 (NICU) 小児看護学教授 / NICUラクテーションサービスセンター長、アメリカ合衆国シカゴ)

1975年以来、早産児およびその母親の母乳育児支援の分野において、開業医、研究者、教育者として活躍されてきました。Meier教授は、母乳分泌・哺乳生理の基礎的あるいは臨床的研究を主とする国際学会、ISRHMLの元会長であり、インターナショナル・ラ・レチェ・リーグの健康諮問委員会のメンバーです。2013年にイリノイ大学とラッシュ大学から複数の栄誉賞を受賞した他、インターナショナル・シグマ・シータ・タウ (Sigma Theta Tau) から子どもの健康と福祉へ多く貢献した人物としてオードリー・ヘップバーン賞も受賞しました。上記の他、150以上のピアレビューを受けた論文と両親向けの教材を出版し、多数の学問分野の大学院生も指導してきました。

Meier教授の生涯研究のテーマは、NICUに入院する乳児を持ち、電動搾乳器を必要している母親の、乳汁分泌の開始と維持を理解し、改善することにフォーカスしています。また、NICUに入院する乳児の転帰改善および医療コスト削減につながる母乳の効果を最適化する臨床技術の開発にも注力しています。

*受講料のお支払い後にキャンセルをされる場合は、ご返金いたしかねますのでご了承ください。

*お問い合わせは、福岡県助産師会ホームページのお問い合わせフォーム (<https://www.jyosanshi.net/inquiry/>) よりご連絡をお願いします。



主催: 一般社団法人 福岡県助産師会 勤務助産師部会

担当 勤務助産師部会 安河内

協賛: メデラ株式会社

medela
THE SCIENCE OF CARE™